



経済という源流

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

資本主義と自由経済システムは、すべての現実をカバーする真実である。これらは欲望の経済であり、現実はこれに従うものである。

新しい技術は世界の牽引し、経済はその価値を現実から与えられるのである。

これら現実は原始から生存と産業の関係が、生活と社会とともに、そのマジョリティを占有することなのである。

これらは生活への供給と技術の革新進歩が、世界を占有することなのである。これが経済第一主義の源流である。また生活の豊かさは、これにおいて、進歩するという信仰が存在するのである。

これらは富における現実の判断という現実を有する。富が現実を決定することである。

これらは生存という絶対性が存在することにおける現実であることは正しいはずである。しかし文明の進歩は生存の克服という新たな課題を提案するのである。

経済は需要と供給において自己を有する。供給を支配することは、生活を支配することであり、供給における自己の価値はその富において資本主義を与える。

また先端産業の保護という、産業における安全保障という新しい現実、自由主義陣営がトッププレゼンスを自己に与えるものである。

これらは自由主義という世界の正義の真実なのである。そのため新社会主義という提案は、新しい哲学における新しい世界の創造を模索するものである。

北欧における社会学の進歩は、市民社会における社会性の追求であることは正しいはずであり、これらが西洋という源流に追える新しい潮流であるならば、知性と理解における世界への到達は新しい世界像を提案できるものである。

これらは経済主義が富という選択における世界を有することへの一つの疑問なのである。